

項目		
試料・情報の利用	研究課題名	腹部・骨盤部悪性腫瘍に対する粒子線治療における吸収性スパーサーの安全性と有効性：スパーサー治療研究会他施設共同研究
目的及び利用方法	研究目的	陽子線や重粒子線といった粒子線は、従来のX線と比較して優れた線量集中性、強い生物効果（特に重粒子線）という特徴を有しており、放射線抵抗性の難治性悪性腫瘍に対しても有効性が報告されている。しかし、悪性腫瘍と正常臓器（消化管など）が近接している場合、粒子線治療により潰瘍・穿孔・出血などの重篤な有害事象が発生するリスクがあり、それを避けるため手術を行い、悪性腫瘍と粒子線に弱い正常臓器の間にスペースを作成する治療が開発されてきた。しかし、手術そのもののリスクに加え、スペースを作成するために人工物を留置するような場合には、留置された人工物による有害事象も発生しうるため、治療後は生体に吸収されるスパーサー（ネスキープ）が開発された。ネスキープに関する臨床研究は、疾患別の小規模なものが小数行われているのみであり、多施設共同で疾患横断的な多数例を対象として安全性と有効性を検討することが本研究の目的である。
	研究対象者	2019年8月1日から2020年7月31日までにネスキープが留置された腹部・骨盤部悪性腫瘍症例
	研究期間	西暦 2021年5月7日～西暦 2026年5月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理についての責任者	当センター 研究責任者	加藤 弘之
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	放射線治療科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	量子科学技術研究開発機構 QST 病院 兵庫県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター 兵庫県立粒子線医療センター 南東北がん陽子線治療センター 大阪重粒子線センター 九州国際重粒子線がん治療センター 名古屋陽子線治療センター 群馬大学重粒子線医学センター 国立がん研究センター東病院